

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン2種類♪

AC トゥーレーヌ・ヴァンクウール・ヴァンキュ・ブラン 2017 (白)

2017年はトゥーレーヌ全域が遅霜の被害に遭う中、買いブドウ先であるブリュノ・アリオンとアラン・コクトーのソーヴィニオンは比較的被害が少なかった！夏が暑くブドウが早熟だったため、収穫日は前年より20日早い9月5日からスタートした！醸造は樽を70%使用！ワインはフレッシュで勢いがありながらも芳醇なエキスがあり、またフキノトウや春菊のようなソーヴィニオンらしいグラッシーな苦みがアクセントになっている！

VdF ヴァンクウール・ヴァンキュ・ルージュ 2017 (赤)

2017年はカベルネフラン、コーが霜の被害にあたり全滅だったため、ガメイ100%で仕込んでいる！ただトゥーレーヌのガメイだけでは十分な収量を確保できなかったため、一部ボジョレーからブドウを買いアッサンブラージュしている！醸造は木桶タンクを使いセミ・マセラシオンカルボニックで仕込んでおり、熟成にはタンクを使わず100%古樽で熟成させている！ワインは野趣溢れるトゥーレーヌのガメイと、ジューシーなボジョレーガメイのキャラクターが見事に混ざり合い、芳醇でコクのある味わいに仕上がっている！

ミレジム情報 当主オリヴィエ・ボノームのコメント

2017年は、2016年同様春の遅霜と夏の猛暑に見舞われた年だった。冬のスタートは暖冬でブドウの発芽も例年より1ヶ月早かった。芽が成長の勢いを増した4月終わりに-5℃まで気温が下がる日が3日間続き、この霜によりボノームの畑はほぼ壊滅的な被害を受けてしまった…。一方、シェール川沿いの買いブドウ生産者は、シュヴェルニーよりも霜の被害が少なかったため、どうにかブドウを確保することができた。その後、6月に入り雨の降らない乾燥した天気が8月の初旬まで続いた。途中猛暑の影響で、いったんブドウの成長にブレーキがかかったが、8月5日、15日と30mmを超える雨が降ったおかげでブドウの成熟が一気に進み、例年よりも2～3週間早い収穫となった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① 自社畑のソーヴィニオン

これは6月26日時点のボノームのソーヴィニオンの畑だ。(写真①)2年連続霜の被害に遭った反動もあってか、今年は房がたくさん付いている！また、今年は春に雨が多く降ったことで、地中に十分な水のストックがあり、ブドウの粒もすでに大きい。ボノーム曰く、例年の今時期は、通常ブドウの大きさがこれの半分くらいというのだから、今年はいかに成長が早いかがこれを見ると良く分かる。さらに、注目すべきはブドウの房！良く見ると実が密集しておらず、実と実の間に隙間が空いている。これは開花の時期に雨が降って花ぶるいがあったため、このようにブドウに隙間が空いているお陰で風の通りが良く、今のところ腐敗や病気の被害をうまく免れているのだそうだ！彼曰く「今年は昨年よりもブドウが

早熟で、このまま順調にブドウが育てば大豊作が期待できる！」とのこと。とりわけボノームのこの畑は、近年ブドウがほとんど取れていないので、ぜひ久々の豊作を願いたいところだ！

これは瓶詰め直前のヴァンクүүл・ヴァンキュ赤のタンク。(写真②) タンクの下にホースでつないでいる大きなポンペはアルゴンガスだ。このアルゴンガスは窒素と同じく無味無臭で、ワインを酸化させずワインの中に溶け込んだ二酸化炭素を押し出すために用いている。下からガスをゆっくりとワインに流し込み1日かけて二酸化炭素を抜く。アルゴンガスは空気より重い気体のため、二酸化炭素を抜いてもタンクにガスが残ってワインに空気が入るのを防ぐ役割を果たす。ちなみに、私がタンクから試飲した時は、まだアルゴンガスを注入して間もなくだったので、まだ二酸化炭素は抜けておらず、味わいはピチピチしていた。



写真② ヴァンキュ赤のタンク

最後に、これはアンフォラの写真。(写真③) ティエリ・

ピュズラと同じジョージア産の1200Lアンフォラを6月の初めにカーヴの下に埋めた。アンフォラのまわりに塗



写真③ 地中に埋めたアンフォラ

られている白いものは石膏。これを上塗りすることでワインの目減りを防ぐ。これから、さらにアンフォラを囲むように四角い壁を作り、上口の高さまで砂利を埋めている。今年が最初の仕込みの予定で、今のところピノドニス候補に挙げられている。ボノーム自身体格がありすぎてアンフォラの中には入られないという理由で、とりあえずブドウのマセラシオンは別のタンクで行い、ワインの熟成だけアンフォラで行う予定だ！ピノドニスのアンフォラがワインとしてリリースされるのは早くて2019年の秋…まだまだ先の話だ！

(2018.6.26.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ